

選択的夫婦別姓について議論になっていることはご存じでしょうか。結婚した夫婦がそれぞれ元の苗字のままでよいとする考えです。多くの大学生にとっては当事者性の低いテーマかもしれませんが、当事者になってから考えても遅いテーマかもしれません。当事者になる前に、自分はどうか考えておくこともあっていいでしょう。

苗字を変える弊害

現在は結婚した夫婦はどちらかが苗字を相手に合わせて変えないといけません。苗字が変わるということは、それまでの自分の苗字に愛着を抱いてきた人にとってはアイデンティティの喪失となります。そうした心理的弊害だけでなく、あらゆる名義変更手続きが一度に発生します。旧姓を通称とする場合は、手続きによって名前を使い分けなければなりませんし、通称を使用しない場合は、社会的に旧姓で活動していた自分との紐づけが煩雑になります。



また、現在では多くの場合、女性側が苗字を変えることが暗に期待されているため、女性に上記のような弊害を押し付けるという点で、女性差別とも結びつく問題です。ここには、「嫁」として先方の「家に入る」という、公式には解体されたはずの「家制度」が文化としては影響力を保持しているという背景もあるのでしょうか。

反対の背景

ところで、「選択的」ということは、そうしたい人はそうしてもいいよ、ということです。夫婦同姓を否定するわけではありません。これまでよりも多くの人の意思を尊重できるようになるわけですから、合理的なことのように思われますが、反対意見もあります。

何事によらず、現状を変えることに対する抵抗は生じます。家族が同姓を名乗る方が絆を感じられるという考えもありますが、夫婦別姓を認めている国では絆が弱いと言えるのかどうかは考えてみる価値があるでしょう（むしろ、夫婦同姓を義務としているのはほぼ日本だけのようです）。戸籍管理が難しくなるという類の話は、理念よりは制度設計に関わる問題のようにも思われます。あるいは、個人の意思よりも「家」としての統一体を守りたいという裏の理念があるのかもかもしれませんが……。

